

三重県図書館協会報 2025 年 3 月 31 日発行

# 協会 だより

## No.76

### 目次

|                                         |   |
|-----------------------------------------|---|
| 「くらしを彩る本まつり」を開催しました .....               | 1 |
| トピックス～図書館をめぐる話題から～ .....                | 2 |
| 令和6年度図書館活性化推進事業のご報告 .....               | 4 |
| 令和6年度全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のご報告 ..... | 5 |
| 研修会のご報告 .....                           | 6 |
| ブックエンド .....                            | 8 |

編集・発行 三重県図書館協会＝津市一身田上津部田 1234 三重県立図書館内 電話：(059)233-1181

## 「くらしを彩る本まつり」を開催しました

三重県立図書館 加藤晴菜

令和6年11月、様々な体験を通じて本の魅力を感じていただき、普段読書をしていない方々にも読書への関心を持つきっかけを提供することを目的とし、総合文化センターへの移転と開館30周年を記念して「くらしを彩る本まつり」を開催しました。

本まつりの開催にあたり、まずは地域の書店や教育機関と積極的に連携し、多様な人々が参加できるイベントの実現を目指しました。具体的には、県書店商業組合や皇學館大学、まちの古本屋さん協会の協力を得る



屋外での読み聞かせの様子

ことができ、開催に至りました。イベントの目玉として、第170回直木賞受賞作家である万城目学氏による記念講演「万城目学が語る『小説家という仕事』」を実施し、作家の生の声を直接聴くことで、参加者に文学の魅力を体感していただきました。さらに、皇學館大学の学生によるワークショップや、県内の書店による古本市を通じて、子どもから大人まで幅広い世代の方々に楽しんでいただけるよう工夫しました。加えてマルシェでは、美味しい食事や生活に彩る雑貨の販売が行われ、絵本漫画師によるダイナミックな読み聞かせの場では、足を止めて聞き入る多くの大人の姿が印象的でした。各ブースでは店主の「推し本」を展示することで、本を通じたコミュニケーションが生まれるなど、本を紹介してつながる場となったことは、本まつりの大きな魅力の一つとなり、訪れる方々にとって本との新たな出会いが次々と生まれる、そんな読書文化を体感できるイベントとなりました。

これらの異なるジャンルのイベントを開催したことで、来場者には色々な角度から興味を持ってお越しいただきました。また個々のイベントが相互に作用したことで、豊かな文化体験の場となり、本まつりは大盛況のうちに幕を閉じました。

今後も、本の魅力を発信し、本との触れあいの場を提供し続けるためには、様々な団体との連携が重要だと感じています。図書館だけではリソースや活動の幅に限りがあり、利用者に対しては一方的なアプローチになりがちです。しかし、連携、協働することで、柔軟な視点が生まれ、創造的な取り組みが実現できると考えています。この先も、より多くの人々に本を手にとっていただけるよう、持続的な読書文化の振興に力を入れてまいります。



古本市の様子

# トピックス

## 〓図書館をめぐる話題から〓

〓無書店自治体の解消  
を目指して〓  
図書館内にふるさとブ  
ックオフ開店！

木曾岬町立図書館

諸戸勝己

私たちの周りにはさまざまな格差があり「格差社会」として近年社会問題化しています。この格差社会の例として、非正規雇用など不安定な雇用形態が要因となる「所得格差」をイメージする方は多いと思われま

す。しかし、格差社会とは必ずしも所得や経済格差だけを表すものではなく自治体間における文化資本の面でも存在します。

出版文化産業振興財団の調査によると、全国1,741市区町村の中で書店がゼロのいわゆる無書店自治体は482市町村に及び、全体の約1/4を超えるといわれています。木曾岬町もこの無書店自治体であり、



館内の様子

木曾岬町立図書館店がオープンしました。このオープンは、本を基軸としたサステナブルなサービスをコミュニティスペースで提供し、地域活性化と無書店自治体の解消を目指す町からの呼び掛けに応じていただく形で実現しました。オープンに際しては、町と同社が書籍を通じた地域振興を目指す地域連携協定を締結し、令和6年4月23日に公共施設への出店としては全国で2例目として誕生しました。

ふるさとブックオフでは、図書館内の一角にブックオフ専用の本棚を配置し、本の販売や補充は図書館スタッフが行います。販売価格は110円、220円、330円の3種類のみで本の買取は行っていない。コミックや絵本、文庫本や小説などさまざまな種類の本を約4,000冊販売しており、ブックオフからは売上金の10%が賃料として町に支払われます。初月の販売実績は132冊で26,730円、5月は188冊で39,160円、6月は171冊で30,470円であり、勉強の息抜きにコミックを立ち読みする学生や絵本を探す親子の姿が見られます。平成30年1月に開館した図書館

では、利用促進のため町内の文化団体や子ども園の園児のほか、小中学校の児童・生徒たちの作品を展示する「郷土文化交流スペース」を確保し、毎月作品展をしたり図書館フェスタとして年に数回のミニコンサートを実施していますが、利用者からはこの絵本は安いのでありがたいといった声が聞かれるなど好評で図書館の利用促進に貢献していただいています。

今後も利用者に喜んでいただける図書館づくりを目指し、試行錯誤しながら取り組んでいきます。



館内の様子



## 「桑名市立中央図書館開館20周年記念イベント」を開催

### 桑名市立中央図書館

桑名市立中央図書館は2024年10月1日に開館20周年を迎えました。20年間の感謝の気持ちとともに、今後利用者との縁をつないでいきたいという思いを込めて、「つながるイベントや展示を行いました」。



イベントポスター

採用され、来館者に無料で配布し、大変好評でした。

②1年間、特集展示のコーナーに20周年記念の特集コーナーを設置し当館スタッフブログの閲覧ランキングの発表やスタッフからのメッセージ、「推し本」としておすすめしたい本の書きPOPなどを展示し、その「推し本」の書きPOPの一環として、市長のおすすめ本コーナーの設置をしました。

③切り絵体験やランプシェード工作、新聞ちぎり絵、防災工作、はじめての製本などのワークショップを実施しました。小さなお子様から年配の方々まで、幅広い年齢層に楽しんでもらえる内容としました。切り絵体験や、ランプシェード工作、新聞ちぎり絵などは、手先を使って、集中して作業に取り組むことを楽しんでもらえたようで、好評でした。防災工作をはじめの製本は、実用性を兼ね備えた内容で、参加者が実際に役立つ技術や知識を学べる良い機会となったようです。特に、製本は「初めての挑戦」という方が多く、完成した本を手にして、とても満足されたようでした。

親子連れの参加者にも、家族で一緒に楽しみながら学べるワークショップ

ブとなり、とても楽しんでもらえたようです。

④館内をまわりながら謎を解いていく館内謎解きクイズラリーのイベントを開催しました。クイズを解きながら図書館に関する知識を深める内容となっており、挑戦された方々はより一層、図書館を知ってもらえた機会になったと思います。



イベントの様子

図書館は単に本を貸し出す場所にとどまらず、地域の人や文化を育み、知識を深め、創造的な活動を促す場所になりつつあります。

20周年という節目は、一つの区切りではありますが、同時に新たなスタ

ート地点でもあります。今後も地域の皆さまに愛され、必要とされる図書館であり続けるため、より充実したサービスを提供できるよう努めてまいります。

## 令和6年度

### 図書館活性化推進事業のご報告

令和6年度の当協会による図書館活性化推進事業では、2館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

#### ①親子で作る「ぼくの、わたしの本箱」づくり

みなみいせ図書館 田中由紀子

今年度、わたしたちは、三重県図書館協会の助成を受けて、町内2つの図書室（みなみいせ図書室・なんとふれあい図書室）の協同で、町内3つの小学校の児童を対象に、十一月～三月に至り「親子で作る本箱づくり」を実施しています（現在進行形。限定100組）。

これは、「ご家庭に本をお届けする」ことを目的としたものです。昨年度は高齢者に向けた事業に助成をいただいていた現在も継続していますが、学校の統廃合によりスクールバスで通う児童たちの図書室利用が減少傾向にあることから、この本箱づくりをきっかけに親子と一緒に図書室へ来て、本を借りて、その本をご家庭でこの本箱に入れてくれたら嬉しい。

い！という思いで始めました。みんなが集まって同時に作っていたくイベントとしてではなく、ご都合の良い日時に一組一組マンツーマンのかたちで、電動ドリルやノコギリでの危険を伴う作業は、私たちが手助けをしながら作り上げていただいています。

親子で力を合わせて本箱が出来ていく時の楽しそうな様子、完成した時の嬉しそうな笑顔は、私たちにも幸せな気持ちをもたらしてくれます。



イベントの様子

本箱づくりで初めて図書室に来てくれた子や、友だちに宣伝してくれたお母さん、また、実際にご家庭で使われている様子を伝えに来てくださる方などもみえて、この事業を通して本当に良かったと思います。

#### ②謎の生物「チリモン」発見!!

伊勢市立小俣図書館 田畑美佳

「謎の生物「チリモン」発見!!」は、ちりめんじゃこに混入している小さな生き物を調べる講座です。講師は鳥羽市にある海の博物館へ依頼しました。「本物」と「調べる」を合わせた体験型の調べ学習を行うことで、子どもたちの自発的な調べ学習へと発展させることを目的としています。

今回、「チリモン」というネーミングが子どもたちに絶大な人気のゲームを連想させることから、そのイメージを絡めたアイテム（チリモンボール、チリモンカード、チリモン図鑑など）を盛り込み、調べ学習におもしろさをプラスする内容にしました。たくさんのチリモンをみつけた子どもは、まさにチリモンマスター！ということで、講座終了後にはチリモンマスター缶バッジと魚へん缶バッジをプレゼントし、楽しかった思い出と海に関する知識を持って帰っていただきました。



講座の様子

会場内には海や魚に関する図書の展示とともに、魚へん漢字クイズ「魚の名前、読めるかな?」を掲示し、海や魚に関する知識を深めてもらえるコーナーも設置しました。魚へん缶バッジを片手に、魚の名前を調べている子どもたちがたくさんいました。

アンケートには「最近まれにみる子どものイキイキした表情をみるこ



とができました！」「大人の方が夢中になってしまいました！」「子どもが初めて魚の漢字を覚えました」などなど、たくさんの方の好評を感じるコメントが記入されていました。親子が一緒になって楽しく知識を深めていただけた講座になったのではないかと思います。



講座風景

来年度、夏休みテーマコーナーでも海に関する資料等と一緒に、今回のチリモン講座の掲示を行い、自由研究のアイデアの1つとして紹介したいと思っています。

## 令和6年度

# 全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のご報告

令和6年度の当協会による全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業では、2館が助成の対象となりました。対象館から事業のご報告をいただきました。

※三重県立図書館の事業については巻頭に報告を載せています

## 「図書館2歳のお誕生日をお祝いしよう！」

亀山市立図書館 高重京子

令和7年1月26日、亀山市立図書館は開館2周年を迎えました。これを記念し、「お誕生日をお祝いしよう！」と題したイベントを開催しました。

全国から応募のあった創作童話コンクールの表彰式をはじめ、地元の小説作家のコマヤスカンさんによる「まめまめ絵本づくり」、本の魅力を語り合うビブリオバトル、さらにはトイレールの運転会など多彩な催しを実施しました。利用者の皆さんには日頃の思いを込めたメッセージ



設置されたケーキ型オブジェ

カードを大きなケーキ型オブジェに飾っていただき、オリジナルのカップセルトイも用意しました。

このイベントは、図書館に足を運ぶきっかけとなり、より身近に感じていただくことで本との新たな出会いにつながることを目指しました。

「また来たい」「本をもっと読んでみたい」と思える場づくりに重点を置き、気軽に立ち寄れる図書館づくりを大切に、誰にとってもゆったりと過ごせる「居場所」となることを願っています。

また、1月・2月はイベント対象月とし、来館者にはオリジナル缶バッジやノート、しおりなどをプレゼントしました。子どもたちだけでなく大人も嬉しそうにグッズを手にする姿が印象的で、図書館が人々に喜びと笑顔を届ける場になっていることを実感しました。

令和10年度には、亀山市の図書館100周年を迎えます。これまでの100年をふまえ、これからの100年を見据えて、多彩なイベントや取り組みを通じて、人との交流や本や読書の魅力を広めるだけでなく、地域の皆さんにとって「また来たい」と思える図書館づくりに努めてまいります。



イベントの様子

# 研修会のご報告

## 第110回全国 図書館大会長崎大会

11月31日、12月1日に開催された、第110回全国図書館大会長崎大会には、当協会の令和6年度全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のうち、図書館職員の人材育成事業（研修等への参加）をご利用いただき、2館2名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた三重県立図書館の田邊涼太さんに大会の様子をご報告いただきました。

### 第110回全国図書館大会長崎大会に参加して

三重県立図書館 田邊涼太

参加した第110回全国図書館大会の中から、第1分科会「社会の変化と公共図書館のミライ」について報告する。

この分科会では、初めに石川県立図書館長の田村氏による基調講演が行われ、その後諫早市立諫早図書館、五島市立図書館、筑後市立図書館よ

りそれぞれの施設での取組について紹介された。それぞれ特色のある取組を紹介されたが、どの施設にも共通する点が見られた。一つは、図書館の資源をもとにサービスを考えるのではなく、利用者の行動やニーズを出発点にサービスを考える姿勢を重視されていたこと。そして、自分が所属する枠組みだけにとらわれず、外部の人々とながら、広い視野で活動を展開することの重要性を強調されていたことであった。

今回の大会を通じて、これまで私は既存の資源を基にサービスを考えがちだったことに気づかされた。今後は、利用者の行動やニーズを出発点にサービスを考える視点を大切にしたい。そのためには、利用者の実態を把握し、自分たちだけでは見えないニーズにも目を向ける必要がある。他部署や外部団体と積極的なつながることで、新たな視点を得られ、より良いサービスの提供につながる。と感じた。今後は連携を意識した取組を行っていききたい。

## 図書館職員基礎講座

比較的経験の浅い職員向けの研

修である基礎講座を、11月20日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「本のディスプレイとポップの作り方について」をテーマに、東海学院大学のアンドリュー・デュアー教授を講師にお招きしました。この研修には24名の方にご参加いただき、その中から松阪市嬉野図書館の芝田亜希子さんにご報告いただきました。

### 図書館職員基礎講座に参加して

松阪市嬉野図書館 芝田亜希子

基礎講座は「本のディスプレイとポップの作り方について」というテーマで、アンドリュー・デュアー氏に研修していただきました。前半は図書館のポップが持つ役割とそれを活かすためのポップ作成方法を学び、後半はポップ作成の実践という流れでした。

ポップが来館促進のための重要なアイテムのひとつになること、そして、館内の検索の目印としても可能な限りポップで表現した方が良いでしょう。大変参考になる講義内容でした。後半の実践では、先生にアドバイスをいただきましたが参加者持参の本

のポップを作成しました。どうすれば利用者の目に付きやすいか？読んでみたいと思うか？を悩みながらも楽しく手を動かし、あっという間に時間が過ぎていきました。



研修の様子

一冊にじっくり向き合ってポップを作成する貴重な経験と今までの自分の発想になかったことを教わり、印象に残る研修でした。また、魅力的な本の紹介文を書けるようになるので、学びの場があったら参加したいです。今後も利用者に楽しんでいただける展示や図書館環境づくりに役立てたいと思いました。



## 図書館職員専門講座

ある程度の経験年数を経た職員向けの研修である専門講座を、10月10日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「図書館でのイベント運営について」をテーマに、三重県立津高等学校の井戸本吉紀氏を講師にお招きしました。この研修には、29名にご参加をいただき、その中から、鳥羽市立図書館の太田千恵さんにご報告をいただきました。

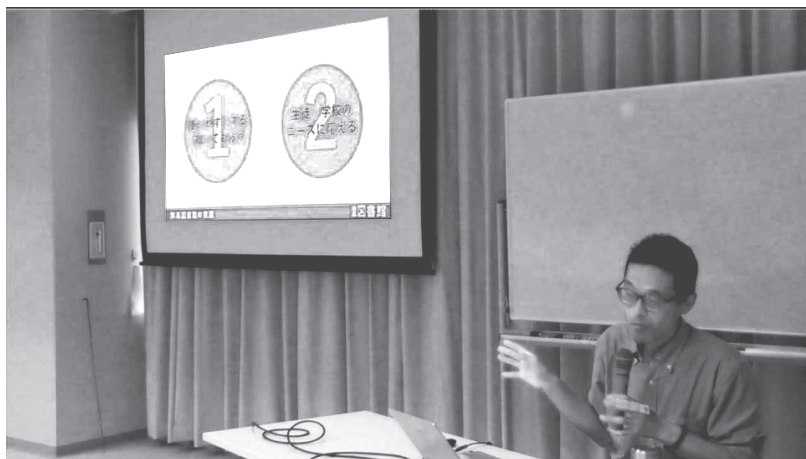
### 図書館職員専門講座に参加して

鳥羽市立図書館 太田千恵

井戸本さんによる津高校での取り組みについては、令和元年の全国図書館大会三重大会の分科会以来でしたので、今回はどんな話が聞けるのか楽しみにしていました。

第一部では実際に行われたイベントを紹介していただき、卒業生から話を聞く「車座トーク」や、部活の発表の場となる「図書館ライブ！」など、自分が生徒だったらいろいろ参加したいなと想像しながら聞き、第二部ではイベントのつくり方とし

て、それらのイベントが図書館発案だけでなく、生徒や先生、卒業生からのきっかけで開催されていることに、いろんな人の協力の元、イベントを作っていくこともできるのか、と感じました。



研修の様子

当館では、毎月のイベントとしておはなし会や紙芝居の会などを行い、夏休みには工作教室を開催するなどしています。どんな内容にするか、

どう宣伝するか、宣伝しても参加者が集まらないなど、悩みがたくさんあります。今回の講座は公共図書館でも使えるアイデアやテクニクがあり、とても参考になりました。アテナを張り、どういう内容にしたら興味を持ってもらえるのかを考えて、イベント運営を行っていきたいと思います。

## 視察研修

先進的な取組を行っている図書館を視察し、見識を深める視察研修を、1月16日に実施しました。近畿大学中央図書館とこども本の森中之島を視察したこの研修には、26名にご参加いただきました。参加された方の中から、鈴鹿工業高等学校図書館の伊藤明さんにご報告をいただきました。

### “書店型” 図書館との出会い

鈴鹿工業高等学校

伊藤明

二つの訪問先（近畿大学中央図書館、こどもの森中之島）の共通点は、本との新たな出会いを誘発するよう

建物・動線・配架などが設計されていることでした。従来の区分・難易度・対象年齢にこだわらず、テーマ毎に知的好奇心を引き出す全体構成が、まるで“本屋さん”を感じさせます。活字離れが叫ばれる昨今、大学や公共図書館はその存在は一応持たせていても手をこまねていては早晚、閑古鳥の“ねぐら”となりかねません。配架区分など変化の潮流がすぐそこまで迫っているのを感じました。



館内の様子

特に印象に残ったのは、「こどもの本の森」書棚のあちこちに大人向



敷地内に設置されているりんごのモニュメント

けの一般図書があり、腰高本棚の上に原著フランス語版『星の王子様』の仕掛け絵本や、アンディウオーホールの大型本などが子供からは見えない天板位置に置かれていたことです。きつと、付き添いの大人の楽しむ顔を子どもが見て、それをきつかけに少し難しめの本を読んでみようと思わせる「設計」では？と思うと、見学冒頭のスタッフの方から「子どもを子ども扱いしない」という運営方針が思い返され、帰宅後に売店で購入した安藤忠雄さんの絵本を読み得心しました。

## 2024年度児童図書研究会全国学習会福岡学習会

2月16日～17日に開催された、2024年度児童図書研究会全国学習会福岡学習会には、当協会の令和6年度全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のうち、図書館職員の人材育成事業（研修等への参加）をご活用いただき、1館1名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた、三重県立図書館の高橋直子さんに研修の様子をご報告いただきました。

### 2024年度児童図書研究会全国学習会福岡学習会に参加して

三重県立図書館 高橋直子

令和7年2月16日～17日に福岡で開催された2024年度児童図書研究会全国学習会福岡学習会に参加する機会をいただいた。まず長崎県生まれの児童文学作家、村山早紀さんに「手紙を書くように物語を綴る」と題して、ご自身の子どもの時代のエピソードや、物語についての思いな

## ブックエンド

### 『太陽の小箱』

中條てい／著  
幻冬舎



鈴鹿市立図書館  
森裕子

映画化された小説「アイミタガイ」の作者で、鈴鹿市出身・在住の中條ていの最新作。少年力オルが、少女イオと中年男オシヨさんと共に、弟の死の真相を突き止めるべく旅に出るストーリー。少年少女のひと夏の冒険譚かと思いきや、介護施設に通う青年の話も挿入されており、登場人物の関係性が明かされないまま話は進みます。最後の最後に、時を越えた奇跡が起きるのですが、人と人の偶然的繋がりを大切に描く作者ならではの結末になっています。

どをお話いただいた。その後、以前から関心のあった読書バリアフリーの分科会に参加した。読書工房代表の成松一郎氏を講師に迎え、「講談社大きな文字の青い鳥文庫」シリーズ創刊の経緯や、全国各地の図書館を取材した経験を踏まえての事例紹介など、様々な観点から読書バリアフリーについて講義いただいた。また、バリアフリー資料の実物を見ながら特徴を解説いただき、非常に参考になった。以前から、本当にバリアフリー資料を必要としている人に情報が届いていないのではないかと懸念していたが、それは全国共通の課題であり、アウトリーチや専門家との連携が必要だとも述べられていた。一方で、人や予算が限られた中で無理なく行うことの大切にも言及されていたのが印象的だった。その他、特別支援学級での読み聞かせや、公共図書館でのりんごの棚設置の事例報告があり、非常に充実した内容であった。

どをお話いただいた。その後、以前から関心のあった読書バリアフリーの分科会に参加した。読書工房代表の成松一郎氏を講師に迎え、「講談社大きな文字の青い鳥文庫」シリーズ創刊の経緯や、全国各地の図書館を取材した経験を踏まえての事例紹介など、様々な観点から読書バリアフリーについて講義いただいた。また、バリアフリー資料の実物を見ながら特徴を解説いただき、非常に参考になった。以前から、本当にバリアフリー資料を必要としている人に情報が届いていないのではないかと懸念していたが、それは全国共通の